

通信

NO. 73
平成31年2月号

ビジネス総研株式会社

福岡市博多区博多駅前4丁目

33番11-702号

☎092-409-4177

今月のスケッチ

バラ



庭に咲いた大輪のバラをガラス瓶に挿してスケッチ。

スタ
コラ

祖母は18歳、 母は女優

柿本 和人

もう随分、昔の話だが。祖母の晩年を見届けられなかった。

痴呆が進行して、性格がキツくなり(よくあることらしい)、「やさしいおばあちゃんの思い出のままでいて欲しいから連絡しなかった」という母の決断があったからだ。

祖母は晩年、攻撃的になると同時に物忘れが進み、最後は自分の娘、すなわち母の顔も忘れてしまったそうだ。

こんなとき、「どうして娘の顔もわからなくなったの!？」と、嘆き混じりに怒りの言葉を浴びせる人もいるだろう。

しかし、母は違っていた。

ある日、病室に入ると祖母は18歳になっていたという。働き始めたばかりの事務職員。そして私の母は、なぜか職場の所長さんだ。

「所長さん!」

「こんにちは、今日も来ましたよ」

空想の世界で、歳が逆転した親子の穏やかな会話が交わされる。

昨日はこんなことがありました。

今朝は〇〇を食べました。

昨日、お見舞いに来た人は怒ってばかりで冷たかった…などなど。

実は、怒ってばかりだったのは、私の叔母である。

性格が真面目で、自分のことがわからなくなった祖母の姿が悔しくてしょうがなかったのだろう。

もっともだ。普通の反応だと思う。

「所長さんは…私に優しいですね…」

「そうですか?」

こんな調子で母は、ずっと祖母の空想に付き合いながら、一方で、やさしいおばあちゃん像を残すため病状を私には告げ

ず、最後まで女優を演じ切った。

ときどき、「本来の祖母」に戻ることもあったという。

臨機応変に対応するのは簡単ではなかっただろうが、母いわく、ときどき嬉しい、それで十分だったそうだ。

くるくる変わる役どころを、機転とユーモアで乗り切ったのは立派だと思う。

家庭内オスカー賞をあげたいくらいだ。

高齢化社会となり、この話はどここの家庭でもありうる。

もしかしたら、あなたも似たような役者を演じたことがあるのでは?

あなたもなれます、オスカー女優。

紅梅が満開



鳥栖市江島町の八幡神社下宮の樹齢120年の梅の古木が、今年も満開の花をつけた。

Relationship & Partnership
B ビジネス 総研

ビジネス総研株式会社

福岡市博多区博多駅前4-33-11-702

☎092-409-4177 FAX092-409-4170

Eメール kuma@b-souken.com

<http://www.b-souken.com>



映画大好きの山ちゃんが、毎回、自分の言葉で執筆します。

妻よ薔薇のように 家族はつらいよ III



監督：山田 洋次
出演：橋爪 功
吉行 和子
西村まさ彦
夏川 結衣
2018年 松竹

三世代が同居する平田家をひとりで切り盛りする主婦・史枝（夏川）。

ある日、家事の合間にうとうとしていた昼下がり、泥棒に入られ、冷蔵庫に隠しておいたへそくりを盗まれる。

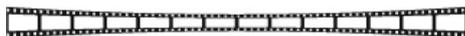
夫・幸之助（西村）から「俺の稼いだ金でへそくりをしていたのか」と嫌味を言われ、余りに気遣いの無い言葉に、それまで溜まりに溜まっていた不満が爆発した史枝は、家を飛び出してしまったから……さあ大変。平田家の一大事へと発展する。

山田洋次監督の「家族はつらいよ」シリーズ第3弾。

今回のテーマは「主婦への讃歌」。どこの夫婦や家族にも起

こりえる問題をコミカルに描き出している。

印象的だったのは、史枝（夏川）がフラメンコを踊る場面と、幸之助（西村）が家族に謝るシーンだった。



くまさんの コンサル日誌



似顔絵作家の小西みどりさんに描いていただきました。

“妻のトリセツ”

黒川伊保子著・講談社

話題の本「妻のトリセツ」を一気に読んだ。

著者は、脳科学・AI研究者とある。

この本では、男性脳と女性脳の違いを具体的な事例をもとに分析してる。

私が行く事業所には、高齢者の福祉施設や病院など、女性職員が多数活躍している事業所がある。

これまで、少数派の男性職員に、男性の思考回路と女性の思考方法は違いがあり、この女性職員の特性を理解することが大事だと話してきた。

この本では、「男性脳は」「会話の目的が問題解決」である一

方で「女性脳」の、「特徴は、共感欲求が非常に高い」ことで、会話のなかで「そうそう」「わかるわかる」と言い交わし、「また、そのうち、なんの脈絡もなく」別の話題に移る。

この「共感女性脳にとって知的行為の核である」として「他人の体験であっても、共感して感情の見出しがつけば」「『とっさに使える知恵』に変えて、脳にしまい込む。それが、井戸端会議の正体」との分析に、“なるほど、なるほど”と納得できる面白い本である。

また、「女性脳のリスクヘッジトリガー」の項に「歯磨きした」「ソファじゃなくて、ちゃんとベッドで寝て」「ビール飲み過ぎ」のくだりでは、まさに、わが家で日常的に繰り返されていることで、苦笑いした。

男性諸氏に申し上げたい。

「とにかく読んで御覧なさい」と・・



編集後記

今年度もあと1か月を残すだけとなりました。

やり残したことはありませんか？

新しい年度の準備はぬかりなく進めましょう。

この「通信」の包装は、袋や用紙、宛名カードの材質の影響で、多少のずれやしわ、ゆがみなどがある場合があります。ご容赦ください。